

水産試験場から水産技術研究所へ



県内での2つの政令市の誕生や市町村合併にともない、県では新たな広域的課題や行政需要の変化に対応するため、4月から県庁組織を10部から7部に再編しました。これにともない、今まで農業、工業など12の試験場（センター）と15の分場等があった試験研究機関も、5つの技術研究所と8センター3分場に再編されました。これにより、103年間続いた水産試験場の名称も新たに水産技術研究所となり、当场も静岡県水産技術研究所富士養鱒場となりました。

再編後の水産技術研究所は管理部が廃止されて総務課及び船舶管理課に分かれ、沼津分室が廃止となり、2部（漁業開発部及び利用普及部）、3分場（伊豆、浜名湖、富士養鱒）、2課の体制となりました。これにともない、沼津分室が担当していた海面養殖に関する業務を富士養鱒場が担当することになり、従来からの冷水性淡水魚類に関する業務及び、昨年加わった河川漁業に関する業務と合わせて富士養鱒場の業務内容や担当区域が広がりました。

また、今までは職員が研究と普及を兼務する体制でしたが、研究の高度化、普及の専門化の必要性から研究と普及が各々専任体制となり、業務内容も明確に分かれることになりました。

このように体制が変わり業務量も増えたことから、業界の皆様との連携がより一層重要となってまいりました。今後とも水産業の発展のため職員一同業務に邁進いたしますので、皆様方の御指導、御支援をよろしくお願い申し上げます。

（五十嵐）

統計に見るマス類生産の変遷

養鱒業界では生産量の減少や魚価の低迷が問題となっていますが、こうした状況がいつごろ始まり、現在どのような状態にあるかを知ることは、今後の養鱒業を考えるうえで参考になるものと思われます。そこで、農林水産統計を基にマス類生産の変遷をおってみました。

1 全国マス類生産量（図1、2）

全国のマス類生産量は昭和40年代に1万トンを超え、50年代以降は2万トン前後で推移しまし

たが、平成5年ごろから減少傾向となり、平成10年以降は減少が続いています。ピーク時の生産量21,029トンに比べ、平成17年の生産量は11,712トンで約56%に減少しています。

全国のニジマス生産量も50年代に増加しましたが、昭和57年の18,230トンにピークに減少傾向に転じ、平成14年に1万トンを割り込み、平成17年には8,148トンとピーク時の45%まで減少しています。

2 静岡県のマス類生産量（図1、2）

静岡県のマス類生産量は昭和50年代から60年代までは3,000トン前後で推移しましたが、平成7年ごろから減少傾向が見られ、平成17年には2,123トンとなり、ピークである昭和58年の3,594トンの59%に減少しました。

静岡県のマス類生産量の全国に占める割合は平成13年までは14～17%で推移していましたが、平成14年以降17～20%で推移しています。最近数年間は静岡県の生産量の減少傾向も大きくなっていますが、全国生産量の減少はこれを大幅に上回っているものと思われます。

静岡県のニジマス生産量の全国に占める割合も17～20%で推移していましたが、平成14年に21%となってからは22～26%で推移しており、ニジマス生産が全国的に減少する中、静岡県の奮闘が光ります。

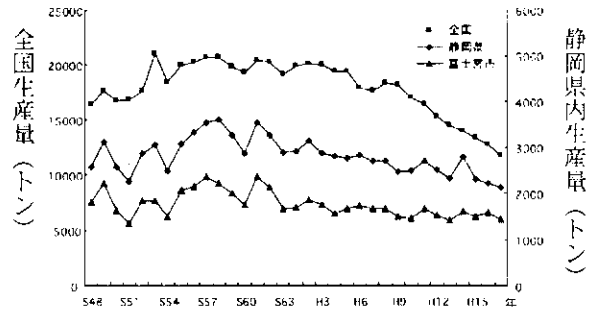


図1 マス類生産量の推移

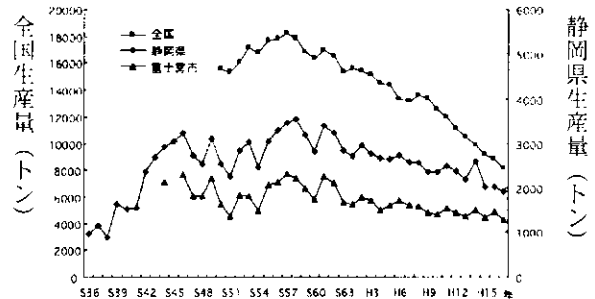


図2 ニジマス生産量の推移

3 富士宮市のマス類生産量（図1、2）

富士宮市のマス類生産量は昭和55年に2,000トンを超え、昭和62年までそのレベルを維持しましたが、昭和63年に大きく減少してからは減少傾向が続いており、ピークである昭和57年の2,358トンに比べて平成17年度は1,434トンで、61%に減少しています。

なお、静岡県の生産量に占める富士宮市の割合は60%代で推移していましたが、最近3年間は占有率が増加しています。

4 マス類に占めるニジマスの割合（図3）

マス類の生産量に占めるニジマスの割合を見ると、全国では昭和50年代当初90%であったものが、昭和50年代後半から徐々に減少して、平成17年

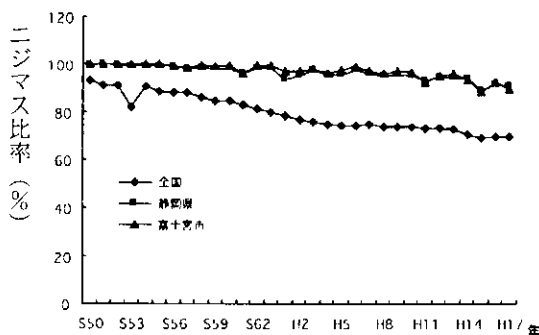


図3 マス類生産量に占めるニジマス生産量の割合

には70%となっています。一方、静岡県は昭和63年まではほぼ100%で、平成になってわずかに低下したものの、依然として90%以上を維持しています。ニジマスの販売不振の中で、全国的には新魚種の開拓など魚種拡大基調にあります。静岡県はニジマスの市場出荷を主体とした大量生産体制が続いているようです。

5 マス類生産額（図4）

全国のマス類生産額は昭和55年の176億円をピークに減少し、昭和58年以降は100～120億円の範囲で推移し、釣りブームとなった平成7年頃に増加するものの、再び減少傾向に転じています。近年の生産額は、ピーク時の60%で、生産量の減少率とほぼ同様です。

なお、農林統計における静岡県の生産額は平成

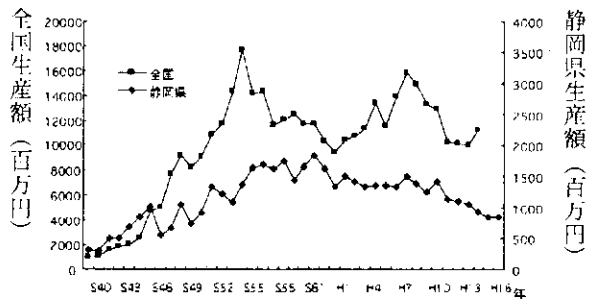


図4 マス類生産額の推移

3年までがニジマス、平成4年以降はマス類となっていますが、生産量の90%以上をニジマスが占めることから、ニジマスとマス類の生産額を一連のものとして取り扱いました。

静岡県のマス類生産額は昭和46年に初めて10億円を越え、以降増加し昭和62年をピークに減少に転じました。平成8年には若干増加しましたが、全国に比べると増加幅は小さく平成14年には10億円を下回っています。平成16年はピークであった昭和62年の47%となり、全国以上に生産額の落ち込みが大きくなっているのはニジマス生産が主体のためと考えられます。

6 平均単価 (図5)

生産額を生産量で除して平均単価を求めました。全国のマス類の平均単価は昭和55年の883円/kgをピークに平成元年には470円/kgまで下がりましたが、その後徐々に増加し平成8年には862円/kgまで増加しその後700~800円/kgで推移しています。

静岡県の平均単価は昭和51年に400円/kgとなり、昭和63年には567円/kgとなりましたが、その後400円/kg台に減少し、平成8年に再び500円/kg台に回復しました。しかし、平成14年以降は

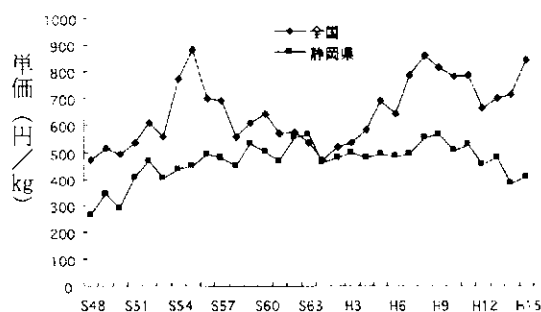


図5 マス類平均単価の推移

380円~407円/kgの範囲で推移しており、低迷状態が続いています。

7 終わりに

統計から見るとマス類生産量は昭和50年代後半をピークに年々減少しておりますが、数年前から平均単価が上昇し、生産額は横ばい状態です。一方、ニジマスは平均単価が依然として低迷し、生産量、額ともに減少傾向が続いており、マス類の平均単価の上昇は新魚種の導入等による活魚出荷によるところが多いように思われます。

今回は統計数字を追うだけでしたが、こうした変遷を知ることによって今後の養鱒業を考える少しでもご参考になれば幸いです。

(五十嵐)

井之頭中学校水生生物観察会が開催されました

5月16日に富士宮市立井之頭中学校の水生生物観察会が開催されました。会場からも3名の職員がアドバイザーとして、河川での調査と生物の観察、水量の測定などに参加しました。

井之頭にある陣馬の滝を調査域とし、淵、平瀬、



早瀬に分かれて水生生物を採集しました。採集した生物は持ち帰って分類し、種類毎に計数しました。

水生生物が好んで住む環境は様々で、同一流域でも調査箇所によって出現生物が変化します。ま



た、きれいな水とそうではない水では、住んでいる水生生物の種類が大きく異なることから、川の環境の指標とすることもできます。

この調査は平成12年から毎年行われており、今年で8回目になります。過去の調査結果と照らし

合わせることで、川の環境の変化を読み取ることもできるようになってきました。このような取り組みは今後も継続して行ってほしいと感じます。

(中村)

富士養鱒場の湧水と気象

月	天 候 (午前9時、日数)				降水量 (mm) カッコは降水日数		湧水量 (万トン/日)	
	快晴	晴れ	曇り	雨	19年	20年平均	19年	20年平均
4月	0	11	14	5	121(13)	212(10)	3.11	4.21
5月	1	16	10	4	197(9)	237(11)	3.62	4.50
6月	1	15	8	6	162(14)	270(12)	3.63	4.97

日 誌

4月2日	辞令交付 (本所)	23日	猪之頭公園運営協議会 (富士宮市)
6日	業務連絡・分場長会議 (本所)	24日	公務災害担当者研修 (三島市)
12日	河川監視員研修会 (浜松市) 普及指導員研修会 (本所)	25日	県かん水養魚協会総会 (沼津市) 海況観測 (沼津市)
18日	河川監視員研修会 (静岡市)	30日	魚病対策研究部会 (東京, ~31日) 普及月例会 (本所) 広報・報道研修会 (静岡市)
20日	青年漁業士育成事業連絡会 (県庁)	6月1日	業務連絡・分場長会議 (本所)
24日	水産事業概要説明会 (静岡市) 海況観測 (沼津市)	5日	ケニファイン記者発表 (東京)
25日	河川監視員研修会 (伊豆の国市)	7日	湖沼河川東海北陸ブロック部長会議 (岐阜市)
26日	新体制説明 (熱海市)	8日	県人事委員会視察
27日	普及月例会 (本所)	14日	富士宮市第2中学校見学
5月7日	業務連絡・分場長会議 (本所)	15日	全国養鱒技術協議会打ち合わせ (静岡市)
9日	熱海市多賀中学校見学	18日	プロジェクト研究打ち合わせ (本所)
10日	県民バス視察見学 世界寿司フォーラム勉強会 (静岡市)	20日	海況観測 (沼津市)
11日	東部地区連絡調整会議 (沼津市)	22日	富士宮市東小学校見学
14日	猪之頭公園運営協議会幹事会 (富士宮市)	27日	普及月例会 (本所)
16日	由比中学校100人見学 井之頭中学校水生昆虫観察会 岳南地域地下水利用対策協議会 (富士市)	28日	県民バス視察見学
		29日	富士養鱒漁協総会 (富士宮市)